



親子でチャレンジ！ 夏休みエコ工作&エコ料理講習会

「大阪ガス ディリパ和歌山」とコラボ開催

8月10日（金）、大阪ガス ディリパ和歌山との共催で「親子でチャレンジ！ 夏休みエコ工作&エコ料理講習会」を開催し、7組17人の親子が参加しました。

エコ工作では、地球環境とエネルギーについて分かりやすく学び、太陽エネルギーについてどんな使い方ができるかを考える「miniソーラーハウス」の製作に挑戦しました。紙パックとミニソーラー発電セットを活用した、夜になると電燈が灯るミニハウスです。

子どもたちは、ハート型やキャラクターのついた窓やドアをつくり、壁や屋根には色紙などを貼り付け、それぞれユニークなミニハウスを工作しました。

また、「エコ料理」（地産地消にこころがけ、できるだけ食材の全てを活用。調理の際には「炎あふれ」に気をつけるなど）に挑戦。



「パンプキン春巻き」「エコ野菜スープ」など4品を楽しく調理し、みんなでおいしく食べました。

エコ工作教室に16組38人の親子参加

上記イベント（10日開催の講習会）への参加申し込みが大変多数になったことから、できるだけ多くの希望者に楽しんでもらえないかと、わかやま環境ネットワーク独自で、急きょ、「親子エコ工作教室」を2クラス開設することにしました。

8月8日の午前と午後、23人の子どもと15人の保護者、総勢38人を迎えエコ工作やエネルギーをつくる体験で楽しんでもらいました。

「楽しかった」「また参加したい」「改めてエコの大切さを学ぶことができ、有意義な時間が過ごせました」などの感想が寄せられました。



草の根からエネルギーデモクラシーへ

7月半ば、2市3町の首長さんと、まとまった時間をとって再生可能エネルギーについてお話をする機会がありました。市長さん町長さんといえば、その地域のあらゆる問題に目配りをする立場ですから、こうしたやや専門的な話題はどうかなど思ったのですが、さすがというべきか、自ら適地の踏査に当たられた方が何人もおられたほどで、みなさん再生可能エネルギーの普及に大きな関心を持っておられることが判りました。

福島第一原発の過酷事故を受けて、いろいろ曲折はあっても再生可能エネルギーへのシフトは大きな流れとなっています。また、7月からは再生可能エネルギー電気の固定価格買取制度もスタートしましたので、この動きはますます加速しそうです。ただ、問題は誰がこの事業を進め、その果実を得るのか。

エネルギー問題はすぐれて民主主義の課題でもあります。10電力会社による地域独占やいわゆる「原子カムラ」と呼ばれる政財官の利権構造など、閉鎖的で中央集権的な体制がこれまでの日本のエネルギー供給を支配してきました。これは日本の後進性の現れに違いないのですが、発電出力数十kWといった発電所は原子力であれ火力であれ水力であれとんでもない巨大装置であり、市町村や地域住民の手には負えない面もありました。

一方、再生可能エネルギーの施設はそれに比べればはる

かに小ぶりで扱い易く、エネルギー資源も地域に広く分布しています。これを生かすことで、市民や地方公共団体など地域主体がエネルギー主権を取り戻す絶好の機会がやってきたといえるでしょう。しかし、いま和歌山県内でメガソーラーや風力の新設で活発に動いているのは、もっぱら県外の大企業です。県内に再生可能エネルギー施設が増えることはいいのですが、これでは和歌山県のエネルギー資源から実現した果実は県外に流出してしまいます。

わかやま環境ネットワークは今年の総会で、再生可能エネルギーについて語るだけでなく、現に普及することを方針に掲げました。それは、3.11原発事故を受けた国民的な脱原発への巨大な意識変化や、原発に代わりうる再生可能エネルギーへの高まる期待に、環境市民団体として真正面から答える道であり、また固定価格買取制度元年の今年が行動を開始するまたとないチャンスだからです。

冒頭に書きましたように、市長さん町長さんも注目しておられます。関心をお持ちの住民も少なくないでしょう。再生可能エネルギー適地と思われるところがあれば、とにかく具体化に向かって働きかけましょう。いま実際に一步を踏み出すことができるかどうか、草の根からのエネルギーデモクラシーを近い将来、実現できるか否かの分かれ道になると思うのです。（重栖 隆）



自然エネルギーへの転換、 低炭素地域社会へ新たな決意で！

.....第9回総会通常総会ひらく

5月26日（土）、Wenet第9回通常総会が和歌山市勤労者総合センターで開かれました。今年の総会は、東日本大震災・福島第一原発事故から1年が経過し、自然エネルギーに対する関心が益々高まる中、また、7月から「固定価格買取制度」が実施されるということもあり、具体的に私たちがどう関わるのか、会内外での期待が高まる中で開かれました。

次の5点を基本に、理事

会提案の方針を決定。全ての議案が承認されました。

- ① 国・県から委託等される事業は誠実に遂行します。
- ② 日本版FIT導入の追い風を活かしつつ自然エネルギーの普及を最大の課題として取り組みます。
- ③ 各地域協議会や推進員への援助を強めます。
- ④ 県民各層にたいし、温暖化防止、自然エネルギー普及促進へ、広く学習会や討論の場を提供します。
- ⑤ 機能的な理事会運営をすすめます。また団体会員交流の場を設けるなど、ネットワーク機能を高めます。

「森林資源の利活用とエネルギー革命」

石橋幸四郎氏（副理事長）が講演

総会后、株式会社 石橋の代表取締役、Wenet副理事長の石橋幸四郎氏が講演しました。

印南町やその周辺の森林をめぐって、未利用資源の有効活用、自然エネルギーの普及等について、自らがとりくみ、また構想していることなどについてお話をいただきました。



クローズアップ わたしたちの活動 (21)

このコーナーはわかやま環境ネットワークに参加する団体や企業、個人の活動記録と今後の展望を紹介します。

今回は、太陽光発電の施工、戸建住宅販売の会社、エコ・トップ株式会社のとりくみを紹介いたします。

太陽光発電施工4600棟突破！

省エネライフを応援！



■満面の笑顔でお客様をお迎えし、住まいの悩みを解決します！

「エコ・トップに頼んで良かった」とお客様に満足し、感動して頂けるよう、営業担当はじめ、現場監督、そしてチームが一丸となり最高のご提案をさせていただきます。

お客様の期待を大幅に上回れることと、信頼して頂けるパートナーになれることを目標に、日々、どんな些細なことでも親身になり、ご相談受け付けております。

■環境問題を意識して

太陽光発電は、クリーンな発電方法なので、私たち人間だけでなく、鳥や花や虫などの動植物を守るためにも良いシステムです。温室効果ガスを先進国が減らさなくてはならないという義務がありますが、これを進めていくにあたって、国民ひとりひとりの意識が大切だと思います。

数ある太陽光発電システムの中で、住宅や企業・工場への太陽光発電システムを普及させていくことは非常に大きな意味があると思うのです。理由は、屋根に太陽光発電パネルを設置していると、その外観から他の人にも見ることができるので、環境問題を周りに問いかけるひとつの主張にもなっていると感じるからです。

私たちができることは、小さな事ですが、まずはお客様にショールームにご来場して頂き、太陽光発電に興味を持ってもらうことです。そこから全てが始まるきっかけになって欲しいと願っています。

■おかげ様で太陽光発電4600棟突破！

「エコ・トップ」が選ばれる5つの理由

1. 施工戸数 4600棟、和歌山県施工実績No.1

人と人の出逢いを大切にし、「心と心のネットワーク創り」を目標に、快適で安心して暮らせる事を切望し、施工実績は近畿2府4県で延べ4600棟を突破しました。

2. 熟練の職人による施工で、安心価格・安心施工

責任による、完全安心工事だから出来る安心の10年工事保障、施工保障、災害補償がついています。さらに、施工責任者による全工程毎の中間検査を行います。太陽光発電設置工事では金具取付がきちんと行われていない場合、雨漏れ等の原因になりますので、トラブルを防ぐために状態をしっかりと検査してから次の工程へ進行するシステム管理を行っています。

3. 地元企業だからできるスピードメンテナンス

お問い合わせは24時間365日電話にて対応可能です。だから給湯器のお湯が出ないなどお困りの時に電話がつながるので、安心というお客様の声が多いです。

4. 安心の国内大手メーカーから最適なプランをご提案

シャープ、パナソニック、京セラ、Japan Solar、三菱、ホンダの6社を取り扱っています。ご自宅のお屋根に最適なメーカー設定が可能です。さらにご予算・ご希望も考慮して、最適なプランをご提案させていただきます。

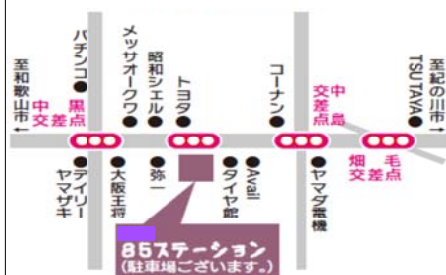
5. 無料シミュレーションで簡単お見積もり

各ショールームでは「お客様のお家に太陽光発電を設置した場合」本当にメリットが出るのか？出ないのか？を確認して頂く無料シミュレーションを行っています。ご自宅の屋根の立面図と数か月分の光熱費の領収書(検針票)があれば簡単にシミュレーションできます。

お客様専用ダイヤル 0120-118585



85ステーション:岩出市中島660-1
Tel. 0736-63-6611



住みいる館:和歌山市小雑賀608-1
Tel. 073-425-0667



紀南エコセンター:田辺市上万呂146-6
Tel. 0739-26-5585



トヨタ「アクアソーシャルフェス」開催

のべ250名参加 里山保全の新しいうねり
 ……はしもと里山保全アクションチーム

第1回の4月15日、芋谷川での生き物調査と春の野の花の観察会(近畿一円から参加者70名、スタッフ、見学者55名参加)に引き続き、第2回は6月10日、伝統の「木杵」を使った田植えと子どもたちによる手植え(参加者90名、スタッフなど40名参加。参加世代は20～40代の若い世代と子供たち)が開催されました。

参加者は、芋谷川流域の棚田・里山の素晴らしい景観に感動しつつ、生まれて初めての田植えを。裸足で田んぼに入り「きもちいい」の連発。芋谷川の清らかな水の引かれた田ん



ぼにはカエルやイモリやオタマジャクシからサワガニまでもが足の踏み場もないほど生息していて、子どもたちは時の経つのを



忘れて楽しんでいました。

昼食は古代米(黒米)入りのご飯と摘みたての「野草の天ぷら」と汁物、第二回は古代米の「カレーライス」。材料は里山メンバーが育てた無農薬栽培の野菜やお米。子ども参加が多いことに合わせて、カレーは甘口と辛口を用意し材料も細かく切っており、おもてなしの心が溢れていて、参加者の好評を博しました。

地元柱本地区の子どもたちや老人会、自治会からも20名が参加。普段はひそやかな棚田風景が一気に活気づき、市民の力で「里山を保全」する道すじを示せたように思います。

事務局だより

5月に事務所移転し、早くも3ヶ月余りが過ぎました。

マリーナシティ・浜の宮海岸のすぐそば、リゾート気分満点の事務所です。夏休みに入るや否や、観光や海水浴、レジャーのお客さんが一気に増え、事務所周辺は賑やかです(写真下)。が、仕事はしっかりやっております。ただ、県庁の方々や、来所される方に交通の不便をおかけしていると思います。ご勘弁ください。

うちエコ診断事業が始動し、盆明けには、「市民がすすめる木質バイオマス活用事業」などが本格化します。みなさまのご支援ご協力をよろしくお願い致します。

まだまだ暑い日が続きます。ご自愛ください。

【盆休み】8月13～15日



第1回「Wenet活動交流会」を開催します

わかやま環境ネットワーク加入団体のみなさんの活動発表の場として、「交流会」を開催します。

第1回目の交流会を下記の要領で開催します。ぜひ、みなさまのご参加をお願い致します。発表団体とともに環境について語り合しましょう!

(会外の方の参加も歓迎です。参加費：無料)

【日時】 2012年9月12日(水)
 午後7時～9時(6:30～7時 理事会)

【場所】：地場産業振興センター(和市紀三井寺)

【発表団体】 NPO紀州えこなびと

「えこなびと」は、ソーラーカーや水力発電など再生可能エネルギー導入の活動、エコツアー活動などで和歌山を元気にしています。

関西に「小水力利用推進協議会」が誕生します。
 関心のある方はご参加を



ういねっと (わかやま環境ネットワーク通信) 第28号 (2012年8月10日発行)

発行：NPOわかやま環境ネットワーク 代表理事 重栖 隆

〒641-0014 和歌山市毛見996-2 電話 073(499)4734 FAX 073(499)4735

mail: wenet@vaw.ne.jp

http://wenet.info/